

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援

「依存者へのグループミーティング及び野外活動支援」事業

依存症に陥っている生活困窮者に対して 依存症の克服と自律を支援するための活動

パチンコやパチスロへの依存をきっかけとして、ホームレスや生活困窮に陥る人がいる。仙台市内で路上生活者に対する支援に取り組んできた団体が、ミーティング、レクリエーション、インセンティブ性のある有償清掃ボランティア活動の提供などを通して、依存症の克服と自律を支援するための活動を行った。



月に1回開催しているGAミーティング

パチンコ・パチスロなどの行動依存者に 生活リズムを再建するための支援

「仙台夜まわりグループ」は、2000年に仙台市内で路上生活者に対する支援活動を開始し、2004年にNPO法人格を取得した団体である。現在は、路上生活者や生活困窮者の自律に向けて、あらゆる支援を包括的に提供する活動を中心に行っている。2011年の東日本大震災後は、被災者支援も含めて実施し、被災地周辺の住民への炊き出し、避難所への物資の提供など、震災後に様々な理由、事情から生活に困窮したあらゆる方々への支援活動にも取り組んでいる。さらに、仙台市の担当部署と定期的に情報交換や懇談会を行うなど、官民一体となった生活困窮者支援体制の構築にも尽力している。

支援の対象者は年間100人以上になるが、最近、以下のような傾向が顕著になってきた。ホームレスなどの生活

破綻した方の多くは疾病・障がい・依存が原因であり、その中でもパチンコ・パチスロなどの行動依存が群を抜いて多い。依存が重度と思われた場合、同法人では当地の依存症治療専門医に繋げているが、病院での依存症治療はGA[ギャンブラーズ・アノニマス(ギャンブル依存症を抱える人々のための自助グループ)]ミーティングと月数回の問診が中心で、デイケアもなく、その他の時間は自助努力に任されている。同法人でも独自に月1回のGAミーティングを開催しているが、病院を含めて回数が少なく、生活リズムの荒廃が見られるという。

そのため同法人では、依存を抱えた人に対し、定期的集まって克服すべき課題を参加者同士で考えたり、趣味に没頭したり、有償ボランティアで社会に役立つ行動をしたりするなどして、生活リズムを再建するための支援事業に取り組むことにした。

活動参加者の顔が輝いてくる様子に 事業の重要性と意義を実感する

同事業では、主に以下のような活動が実施された。

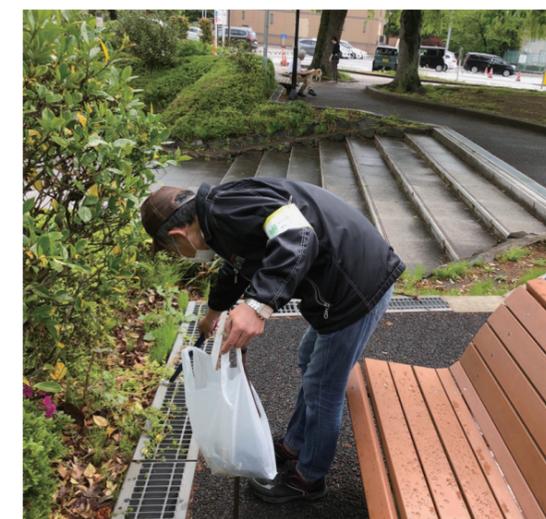
①GAミーティング：月1回(2時間)／年12回／参加者のべ60名。依存当事者同士や克服卒業者が心の扉を開いて話し合い、依存症の本質を知り、どのように克服するかを学んだ。②室内・野外レクリエーション：月1回(2時間)／年12回／参加者のべ71名。野外での軽運動、厳寒期には室内活動を企画したが、新型コロナ蔓延のため、主に室内での映画鑑賞となった。③中間就労：月3回(1時間)／年36回／参加者のべ535名。市内街路や公園などの清掃活動だが、就労が制限された治療期間の中で定期的に体を動かし対価を得るといふ、就労意欲を失わないための活動。社会の一員として役に立っているとい

う自信が得られる。

「本事業は依存に陥られている方々が、自らの立ち位置で依存克服と自律を果たされることを願って支援する活動です。本人たちの依存症への自覚がなければ、私たちの支援活動の力も効果も弱まります。GAミーティングやレクリエーションへの参加を促しながら、苦しんでいるのは自分だけではなく、他の人も同様だと認識し、皆で力を合わせて克服への道を歩むという意味を持つことが重要と考え、活動を実施しました。活動後の懇談で、本人たちの笑顔が輝いてくるのを見て、その意義を実感しました」と、同法人の関係者は話す。この活動への参加者は、同法人が運営する簡易宿泊所入居者やその卒業生などの生活困窮者が対象で、参加者はのべ700名弱となった。



就労意欲を失わないために市内や公園の清掃活動を実施



助成団体:特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ

<http://www.yomawari.net/>



今後も継続して依存症者への働きかけを行っていきます

本年も仙台夜まわりグループの活動に助成をしていただき、心から感謝いたします。路上生活、生活困窮の大きな要因の一つである依存症に対する回復支援の取り組みを実施いたしました。清掃活動、GAミーティング、レクリエーションは回復プログラムとして定着しております。POSCのアディクション対策及び助成に心より敬意を表します。

特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ
理事長 今井 誠二さん